2026_1115「オーロラと星と雪」日々の理科 4480 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

11 月も中旬となり、北極圏スウェーデンのポルユスにも本格的な冬が訪れました。何度か降り積もった雪は、もはや融けることなく、ついに「根雪」となったようです。湖畔の風景もすっかり冬化粧し、地面も線路も一面の雪に覆われています。しかし、湖はまだ凍結していません。静かな湖面には対岸の明かりが映り、右手には緑色のオーロラが淡く反射しています。頭上には無数の星々が輝き、雪と星とオーロラが共演する、北極圏ならではの美しい夜景です。

つい２か月前、私はこの場所を訪れ、まだ雪のない線路に三脚を立てて撮影していました。その線路が今ではすっかり雪に埋もれ、当時の風景とはまるで別世界です。遠く離れた日本からカメラの映像を眺めていると、わずか２か月という時間の流れが不思議に感じられます。北極圏では、秋から冬への季節の移り変わりが、驚くほど速いのです。

やがて湖面にも氷が張り、オーロラの映り込みは見られなくなるでしょう。さらに寒さが厳しくなれば、湖は厚い氷と雪に覆われ、対岸まで続く真っ白な雪原へと姿を変えます。一方、夜空ではこれからもオーロラが舞い続けます。長い極夜へと向かうポルユスは、いよいよ本格的なオーロラ観測の季節を迎えます。季節とともに変貌する風景を、同じ場所から見守り続けられることも、固定カメラならではの楽しみです。

（2026 年 11 月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測）

